

## データで見る岩大・教育学部 (I)

### The Faculty of Education, Iwate University, Seen through Data (I)

久坂哲也\*, 畠山真也\*, 吉田祥子\*, 伊藤 歩\*, 八木一正\*

(2002年9月30日受理)

#### 1. はじめに

大学, 特に教育学部の存在意義が今ほど問われている時はない。しかし, これは新たな飛躍のチャンスでもある。そのためには正確な自己認識が不可欠である。ところが「燈台下暗し」で, 卒業生がどれだけいるのか, 学生の就職状況はどうなっているのか, 特に教員採用状況はどうなっているのかなど, 目に見える形でのデータは見当たらないのが実情であった。これでは自らの足元を見つめられない。そこで, 八木研究室では, 学生に情報処理能力向上策の一環として, この問題解決に取り組ませた。ここでは現在までに調査・分析できたデータのみを公開する。従って, 本研究は, 岩手大学教育学部の過去から現在に至るまでの卒業生数やその就職状況, 更に学校教員の採用者数等を調査・分析・統計処理し, そのデータに基づいて岩大教育学部について改めて客観的に見つめ直してみようという試みである。ところが, 調査をしてみると意外と資料が少ないのに驚かされる。また分類項目が年度によって変ったりして長期に渡る比較が困難であることも分かってきた。よって, 思っていたより少ないデータしか示せず残念である。いずれにしろ今回は細かい解説は省略するが, 読者各自それなりに味わっていただければ幸甚である。

また, 国立大学の統廃合問題の渦巻く中, 岩手大学への交通アクセス状況について, 北東北3大学の交通アクセスの便利さを比較したデータも作成した。このデータも本学教育学部の存在意義を主張するための何らかの参考になればと願っている。

#### 2. 卒業生に関するデータ

本大学は, 昭和24年5月31日に国立学校設置法により新制大学として設置された。この時, 中学校教員養成課程と中学校教員養成課程からなる学芸学部(昭和41年に教育学部と名称変更)が同時に設置され, その後, 特別教科教員養成課程や養護学校教員養成課程が設置され, 現在に至っている。その過去から現在に至るまでの卒業生数の変遷とその累計について, 図1に示した。これによると, 平成14年度まで含めると約1万六千人の卒業生を出すことになる。

また, 平成6年度から平成13年度までの卒業生の進路状況については図2に示した。ただし, 平成7年度のデータの一部欠けたところがあるが, 不明であるため平成6年度と7年度は

\* 岩手大学教育学部

仮に直線で繋いでグラフ化した。この結果から無職者数が増え、正規教員の数と一般公務員の数が平成 10～11 年度の間で逆転していることなどが読み取れる。

### 3. 教員採用試験に関するデータ

昨今、大学の教育学部の教員採用試験の合格率に対して重大な関心が寄せられている。本学部においても深刻な状況が続いてきた。そこで、我々は改めて教員採用試験の結果について見直す必要があると感じ、過去数年間におけるデータを整理した。それを改善しようと就職委員会を中心に全学部規模の協力を得ながら一昨年から努力されてきた。図 3, 図 4 を観察すると、その成果が僅かずつ実りつつあるのがデータから読み取ることが出来る。厳しい社会状況の中、特に平成 11 年, 12 年を境に急激に改善の方向に向っているのは多に期待のもてる場所である。

### 4. 交通アクセスに関するデータ

東京からの北東北大学（岩手大学・秋田大学・弘前大学）への交通アクセス状況、および北東北 3 大学間の交通アクセスに関するデータを図 5～8 に列挙した。ここでは、その便利さを次のように定義して、その数値をここでは“便利定数”と呼んで三大学の便利さを比較していく。

$$\text{便利定数} = \text{主要交通機関の本数} \div \text{所要時間} \times \text{係数}$$

この式の意味するところを以下に説明する。一般的に交通の便利さは、主要交通機関の本数が多ければ多いほど便利で、本数に比例する。逆に所要時間は大きいほど不便で、小さいほど便利であるということは、時間に反比例することになる。従って、数式的には本数÷時間で便利さを比較することができる。その数値は一つの目安であるが、小数点になったりすると面倒である。そこで、最大が 100 程度になれば他と比較しやすいので、そうなるような一定の係数を掛けて便利定数を数量化する方法を採用した。

図 6, 図 7 は同じデータを異なるグラフで表わし、3 大学の交通アクセスの違いをより鮮明にしようと試みたものである。これらから盛岡の利便性が良いことが明らかである。

ただし、投稿後で残念なことであるが、このデータは平成 14 年 12 月 1 日開通の八戸新幹線のデータは入っていない。しかし、これによって弘前への利便性はそれほど向上していないので、今後もしばらくは上記の傾向が続くものと予想できる。

### 5. おわりに

今回は資料が乏しく、残念ながら少いデータしか示せなかった。今後は、新しいデータや他大学の情報も入手して、比較検討、未来予測等に役立つものに改良していきたい。最後に、本研究に対して、望月善次学部長、学務係の藤澤篤雄係長らに格別の協力を頂いたことをここに記し、感謝の意を表したい。

#### 引用・参考文献

岩手大学教育学部概要；平成 7 年～平成 14 年，岩手大学要覧

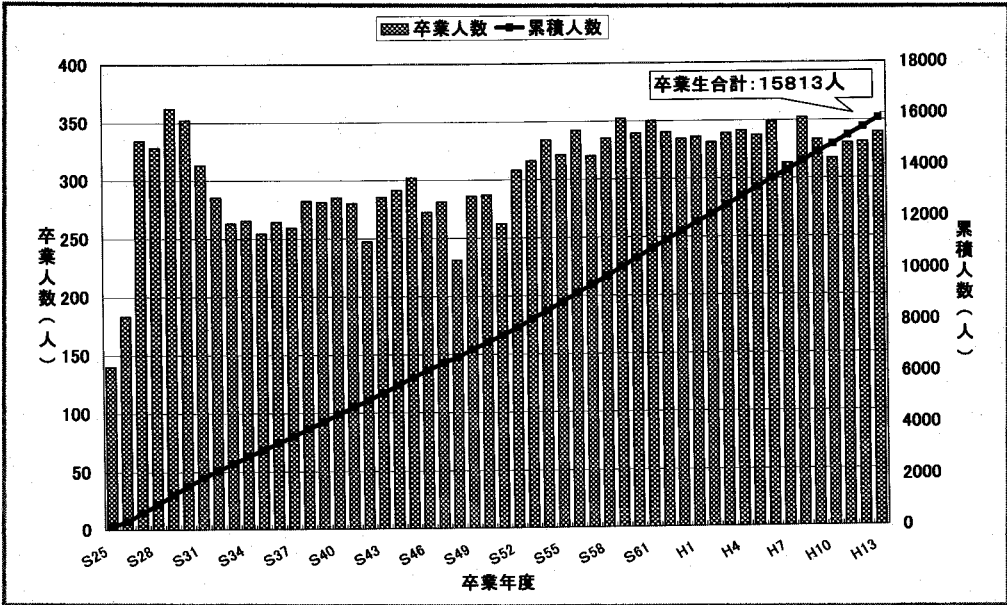


図1 卒業生数とその累積数の変遷 (H13年度までの卒業生数は15,813人)

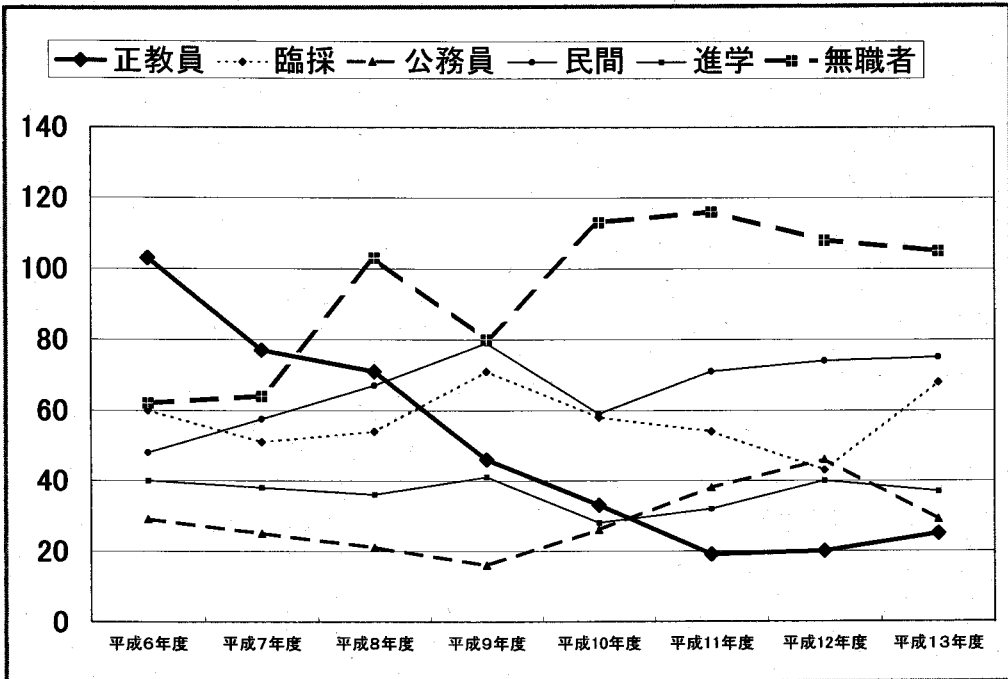


図2 卒業生の進路状況

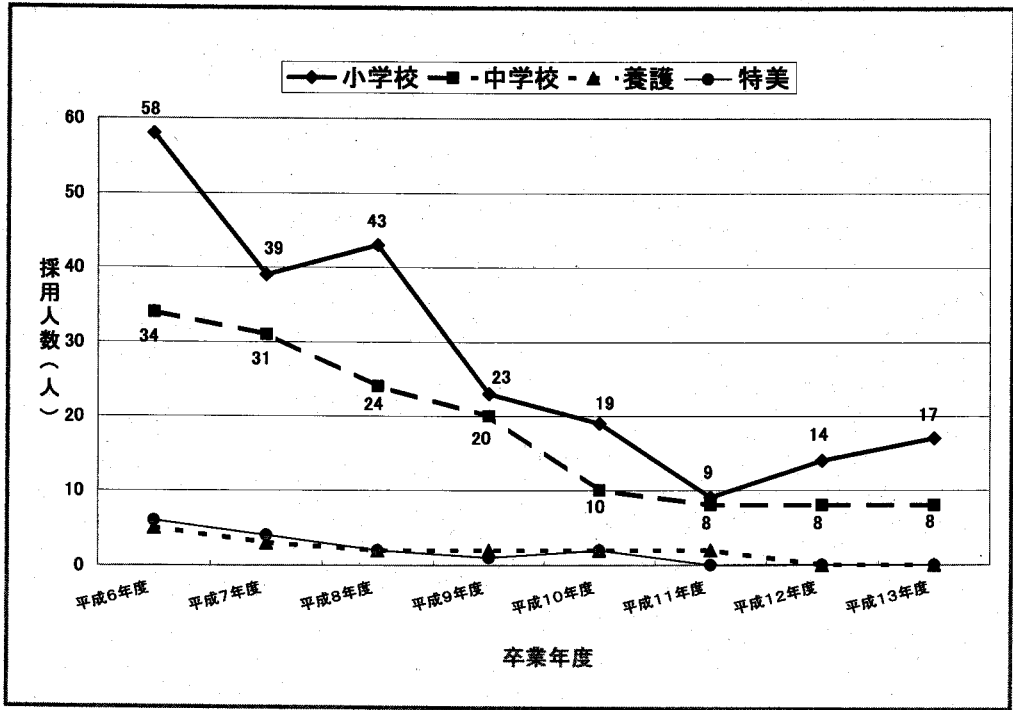


図3 校種別教員採用者の経年変化

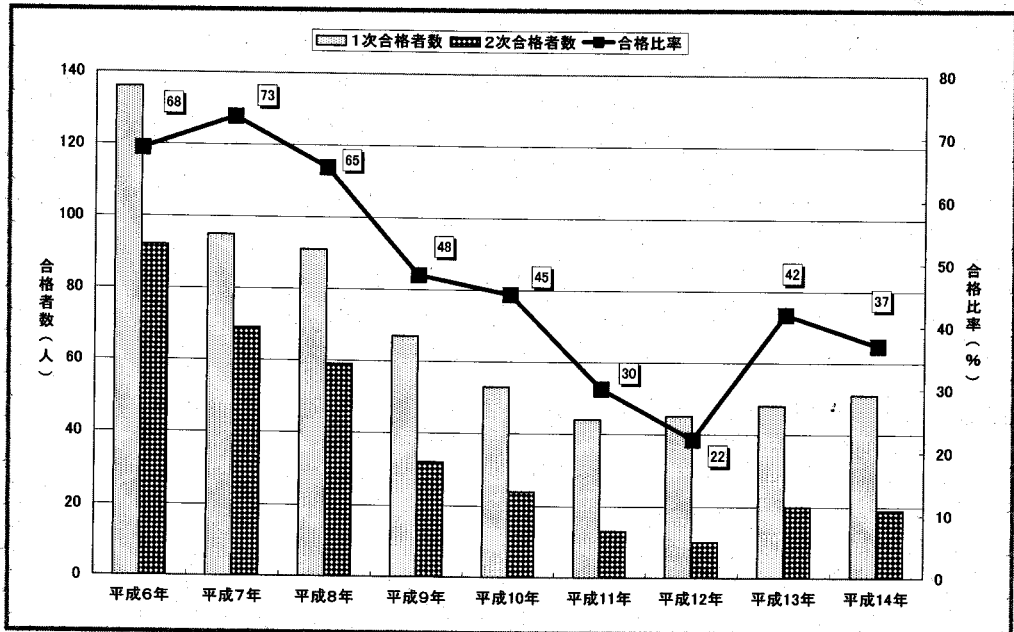


図4 岩手県教員採用試験合格率の経年変化

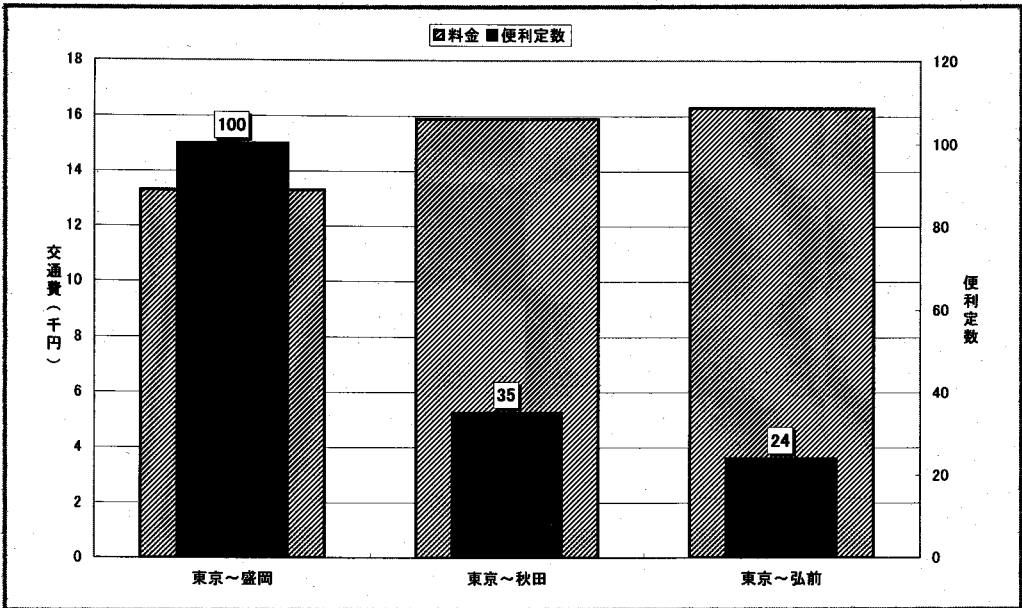


図5 東京からの北東北大学への交通アクセス状況  
(交通費に極端な差はないが便利さには大差があることが分かる)

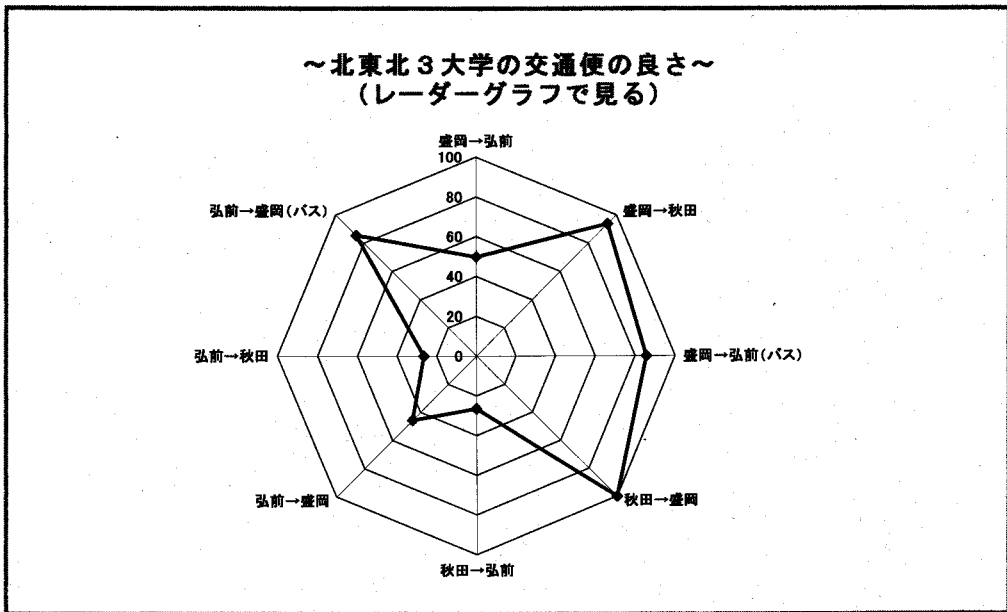


図6 北東北3大学の交通の便の良さ I  
(レーダーグラフで見る…盛岡へのアクセスが良いことが一見できる)

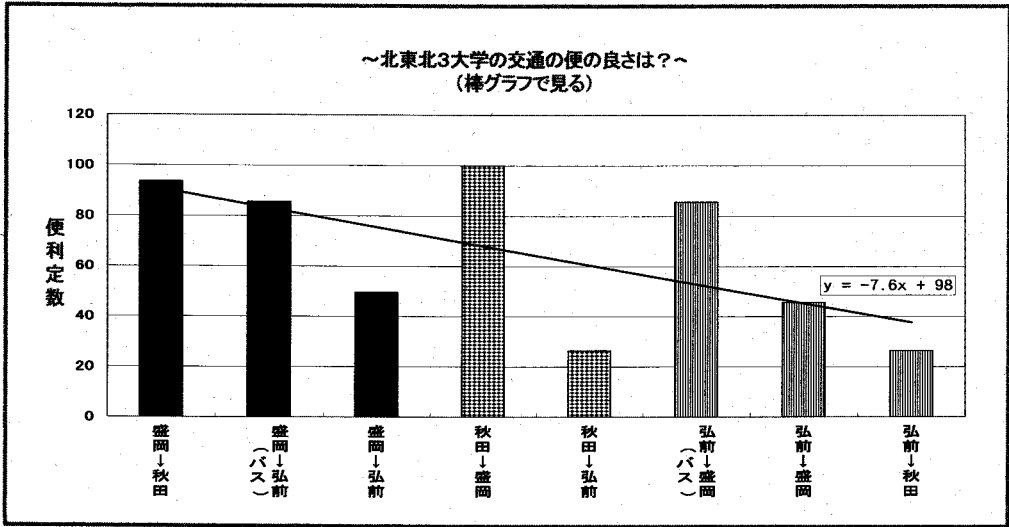


図7 北東北3大学の交通の便の良さⅡ  
(棒グラフで見る…個々のアクセス状況が分かり、盛岡の便利さが見て取れる)

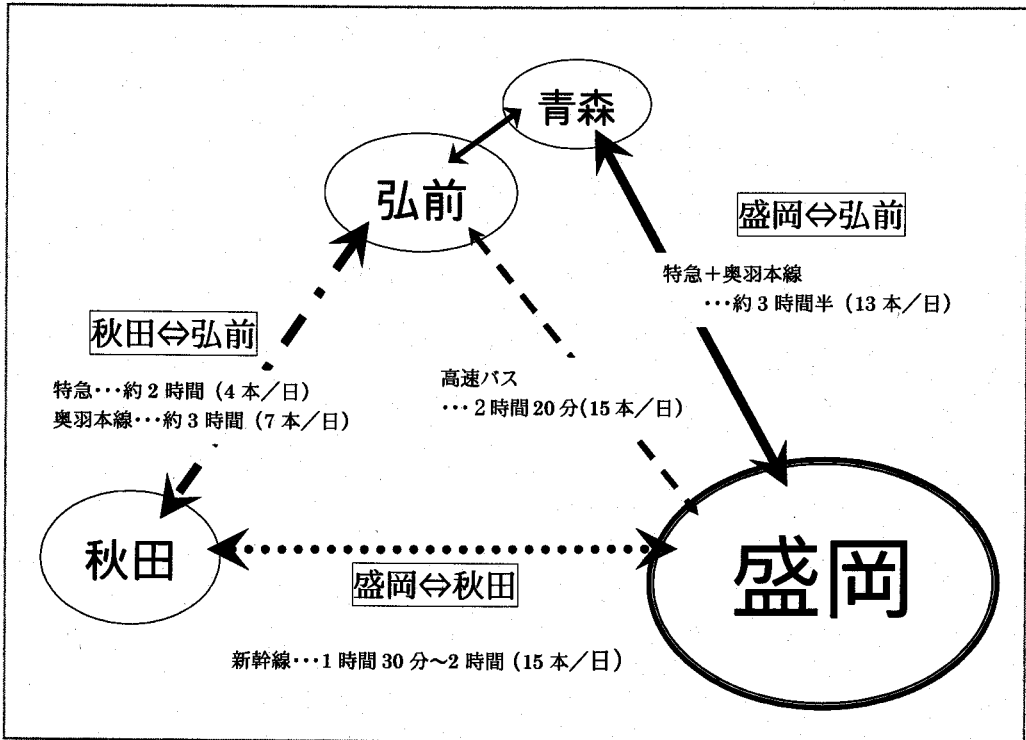


図8 北東北3大学所在地間の交通事情  
(これはH14年11月30日以前のデータである)

表1 卒業生数一覧

年度	卒業人数	累積人数	年度	卒業人数	累積人数
S25	140	140	S51	262	7,474
S26	183	323	S52	308	7,782
S27	334	657	S53	316	8,098
S28	328	985	S54	334	8,432
S29	362	1,347	S55	321	8,753
S30	352	1,699	S56	342	9,095
S31	313	2,012	S57	320	9,415
S32	285	2,297	S58	335	9,750
S33	263	2,560	S59	352	10,102
S34	265	2,825	S60	339	10,441
S35	254	3,079	S61	350	10,791
S36	264	3,343	S62	340	11,131
S37	259	3,602	S63	334	11,465
S38	282	3,884	H 1	336	11,801
S39	281	4,165	H 2	331	12,132
S40	285	4,450	H 3	339	12,471
S41	280	4,730	H 4	341	12,812
S42	247	4,977	H 5	337	13,149
S43	285	5,262	H 6	349	13,498
S44	291	5,553	H 7	313	13,811
S45	302	5,855	H 8	352	14,163
S46	272	6,127	H 9	333	14,496
S47	281	6,408	H10	317	14,813
S48	231	6,639	H11	330	15,143
S49	286	6,925	H12	331	15,474
S50	287	7,212	H13	339	15,813

表2 卒業生進路状況

	正教員	臨 探	公務員	民 間	進 学	無職者
平成6年度	103	60	29	48	40	62
平成7年度	77	51				64
平成8年度	71	54	21	67	36	103
平成9年度	46	71	16	79	41	80
平成10年度	33	58	26	59	28	113
平成11年度	19	54	38	71	32	116
平成12年度	20	43	46	74	40	108
平成13年度	25	68	29	75	37	105

※進学者には大学院のほか研究・聴講生を含む（H7年度のデータは一部不明）

表3 教育学部採用試験結果

	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
臨時採用	60	51	54	71	58	54	43	58
正式採用	103	77	71	46	33	19	20	25
採用合計	163	128	125	117	91	73	63	83

表4 岩手県採用試験結果

	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年
1次合格者数	136	95	91	67	53	44	45	48	51
2次合格者数	92	69	59	32	24	13	10	20	19
合格率	68	73	65	48	45	30	22	42	37

表5 校種別教員採用者数

卒業年度	小 学 校	中 学 校	養 護	特 美
平成6年度	58	34	5	6
平成7年度	39	31	3	4
平成8年度	43	24	2	2
平成9年度	23	20	2	1
平成10年度	19	10	2	2
平成11年度	9	8	2	0
平成12年度	14	8	0	0
平成13年度	17	8	0	0